

年間授業計画

成瀬高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学I

教科： 数学 科目： 数学I 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 7 組

使用教科書： （ 数研出版「数学I」 ）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適格に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①数や式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。②事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	①数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、②図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、③事象を的確に表現してその特徴を表・式・グラフを交互に関連付けて考察する力、④適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、を養う。	①数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を養う。②粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。③問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 【知・技】数と式について理解できるようにする。 【思・判・表】数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形できるようにする。	1. 多項式 2. 多項式の加法と減法及び乗法 3. 因数分解 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 6. 1次不等式 7. 1次不等式の利用 ・一人1台端末の活用	【知・技】数を実数まで拡張する意義や、不等式の解の意味・性質を理解するとともに、簡単な無理数の計算をしたり、2次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をしたり、1次不等式の解を求めることができる。 【思・判・表】既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。1次方程式を解く方法や不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができる。 【態度】数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○		15	
	定期考査			○	○		1	
	第2章 集合と命題 【知・技】集合と命題について理解できるようにする。 【思・判・表】命題の証明をできるようにする。	1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明 ・一人1台端末の活用	【知・技】集合と命題の基本的な概念を理解している。 【思・判・表】命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	9	
	定期考査			○	○		1	
2 学期	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 【知・技】2次関数について理解できるようにする。 【思・判・表】関数についての特徴を表、式、グラフと関連付けて考察することができるようにする。	1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大と最小 ・一人1台端末の活用	【知・技】2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 【思・判・表】2次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察することができる。 【態度】2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	12	
	定期考査			○	○		1	
	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次方程式と2次不等式 【知・技】2次不等式について理解できるようにする。 【思・判・表】2次不等式をグラフと関連付けて考察することができるようにする。	4. 2次関数の決定 5. 2次方程式 6. グラフと2次方程式 7. グラフと2次不等式 ・一人1台端末の活用	【知・技】2次方程式の解や2次不等式の解と、2次関数のグラフとの関係について理解し、2次不等式の解を求めることができる。 【思・判・表】2次関数のグラフと2次不等式の解との関係について考察することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	21	
	定期考査			○	○		1	
3 学期	第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 【知・技】図形と計量について理解できるようにする。 【思・判・表】図形の性質や計量について論理的に考察し、表現できるようにする。	1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 ・一人1台端末の活用	【知・技】鋭角の三角比の意味や、相互関係、三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思・判・表】図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 【態度】図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	21	
	定期考査			○	○		1	
	第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 【知・技】図形の性質や計量について論理的に考察し、表現できるようにする。	7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 ・一人1台端末の活用	【知・技】既習内容を理解し、面積等を求めることができる。 【思・判・表】図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象等を数学的に捉え、問題を解決したり考察したりすることができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	9	
	定期考査			○	○		1	
3 学期	第5章 データの分析 【知・技】データの分析について理解できるようにする。 【思・判・表】適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、考察できるようにする。	1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位範囲 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方 ・一人1台端末の活用	【知・技】分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 【思・判・表】目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 【態度】データの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	14	
	定期考査			○	○		1	
							合計	105

成瀬 高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 7 組

使用教科書： （ 数研出版「新課程 4STEP 数学Ⅰ+A」, Lean-S「進研 WIN STEP 数学Ⅰ・A Standard 新課程版」 ）

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適格に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ②数学と人間の活動の関係について認識を深める。 ③事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるよ	①図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見いだし論理的に考察する力を養う。 ②不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。 ③数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養	①数学のよさを認識し活用しようとする態度を養う。②粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。③問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 【知・技】場合の数について理解できるようにする。 【思・判・表】場合の数について考察できるようにする。 【態度】場合の数について興味を示し、考えさせる。	1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 円順列・重複順列 5. 組合せ ・一人1台端末の活用	【知・技】集合の要素の個数に関する基本的な関係や順列・組合せの意味を理解し、総数を求めることができる。 【思・判・表】場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 【態度】場合の数を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	第2節 確率 【知・技】確率について理解できるようにする。 【思・判・表】確率について考察できるようにする。 【態度】確率について興味を示し、考えさせる。	6. 事象と確率 7. 確率の基本的性質 8. 独立な試行の確率 ・一人1台端末の活用	【知・技】確率の意味や法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値、独立な試行の確率を求めることができる。 【思・判・表】確率を求める方法を多面的に考察することができる。 【態度】確率を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	11
定期考査			○	○		1	
2 学期	第2節 確率 【知・技】確率の意味や法則について理解できるようにする。 【思・判・表】確率について考察できるようにする。 【態度】確率について興味を示し、考えさせる。	9. 反復試行の確率 10. 条件付き確率 11. 期待値 ・一人1台端末の活用	【知・技】条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 【思・判・表】確率を求める方法を多面的に考察することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	9
	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 【知・技】図形の性質について理解できるようにする。 【思・判・表】図形の性質を見いだし、論理的に考察できるようにする。	1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心、内心、重心 ・一人1台端末の活用	【知・技】三角形に関する基本的な性質について理解している。 【思・判・表】図形の性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 【態度】図形の性質を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
3 学期	第2節 空間図形 【知・技】図形の性質について理解できるようにする。 【思・判・表】数学の構造を見いだし、数理的に考察できるようにする。 【態度】図形の性質について興味を示し、考えさせる。	3. チェバの定理 メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 方べきの定理 7. 2つの円の位置関係 ・一人1台端末の活用	【知・技】三角形や円に関する基本的な性質について理解している。 【思・判・表】図形の新たな性質を見いだし、論理的に考察したり説明したりすることができる。 【態度】図形の性質を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	第3章 数学と人間の活動 【知・技】数学と人間の活動について認識を深めるようにする。 【思・判・表】図形の性質を見いだし、論理的に考察できるようにする。 【態度】数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。	8. 直線と平面 9. 多面体 ・一人1台端末の活用	【知・技】空間図形に関する基本的な性質について理解している。 【思・判・表】図形の新たな性質を見いだし、論理的に考察したり説明したりすることができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	5
定期考査			○	○		1	
3 学期	第3章 数学と人間の活動 【知・技】数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 【思・判・表】数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	1. 約数と倍数 2. 素数と素因数分解 3. 最大公約数・最小公倍数 4. 整数の割り算 5. ユークリッドの互除法 6. 1次不定方程式 ・一人1台端末の活用	【知・技】数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 【思・判・表】数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		合計
	定期考査			○	○		70

成瀬高等学校 令和5年度（2学年用）教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科：数学 科目：数学Ⅱ 単位数：4 単位

対象学年組：第2学年 1組～7組

使用教科書：（数研出版「数学Ⅱ」）

教科 数学

の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。②事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	①数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、②座標平面上的図形について構成要素間の関係に着目し、図形の性質を論理的に考察したりする力、③関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、を養う。	①数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を養う。②粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。③問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式と不等式の計算 【知・技】式と証明について理解できるようにする。 【思・判・表】等式や不等式の証明をできるようにする。	1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 6. 等式の証明 7. 不等式の証明 ・一人1台端末の活用	【知・技】3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすることができる。 【思・判・表】実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 【態度】事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	20
定期考査			○	○		1
第2章 複素数と方程式 【知・技】複素数と方程式について理解できるようにする。 【思・判・表】既習事項と関連付け考察をできるようにする。	1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式 ・一人1台端末の活用	【知・技】数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解している。 【思・判・表】式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	12
第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域 【知・技】図形と方程式について理解できるようにする。 【思・判・表】座標平面上的図形について構成要素間の関係に着目して考察できるようにする。	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域 ・一人1台端末の活用	【知・技】座標平面上的直線や円を方程式で表すことができる。軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 【思・判・表】座標平面上的図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 【態度】事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	18
定期考査			○	○		1
第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 【知・技】三角関数について理解できるようにする。 【思・判・表】三角関数の式とグラフの関係について考察できるようにする。	1. 一般角と弧度法 2. 三角関数 3. 三角関数の性質 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の応用 6. 加法定理 7. 加法定理の応用 8. 三角関数の合成 ・一人1台端末の活用	【知・技】弧度法による角度の表し方について理解している。三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解している。・三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解している。 【思・判・表】三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 【態度】事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	24
定期考査			○	○		1
第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数 【知・技】指数関数と対数関数について理解できるようにする。 【思・判・表】指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について考察できるようにする。	1. 指数の拡張 2. 指数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数 ・一人1台端末の活用	【知・技】指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。 【思・判・表】指数と対数を相互に関連付けて考察することができる。指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 【態度】事象を指数関数・対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	24
第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 【知・技】微分係数と導関数について理解できるようにする。 【思・判・表】関数とその導関数との関係について考察することができるようにする。	1. 微分係数 2. 導関数 ・一人1台端末の活用	【知・技】微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 【思・判・表】関数とその導関数との関係について考察することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1
第6章 微分法と積分法 第2節 導関数の応用 第3節 積分法 【知・技】微分法と積分法について理解できるようにする。 【思・判・表】微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察できるようにする。	3. 接線 4. 関数の値の変化 5. 最大値・最小値 6. 関数のグラフと方程式・不等式 7. 不定積分 8. 定積分 9. 面積 ・一人1台端末の活用	【知・技】導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解している。不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 【思・判・表】微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 【態度】事象を微分・積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	32
定期考査			○	○		
合計						140

年間授業計画

科目名 (単位数)	数学Ⅰ・A演習(4)	教科書:数学Ⅰ、数学A (数研出版)
対象学年	3	副教材1:リンク 数学演習Ⅰ+A 受験編(数研出版)
履修形態	選択	副教材2:
講座数	2	副教材3:
科目の目標	用語や公式・定理を確認する。 基本問題や標準問題の反復練習を行い、基本事項を定着させる。 重要例題に取り組み、内容を統合的に理解する。 入試問題に対応できる実践力を養う。	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	1 数と式 2 1次不等式 3 集合と命題 4 2次関数のグラフ 5 2次関数の最大・最小 6 2次方程式・2次不等式	整式の四則計算、展開、因数分解 絶対値、式の値 絶対値つき不等式 命題の真偽、逆・裏・対偶、必要十分条件 2次関数のグラフ、平行移動 最大・最小値 2元2次式の最大最小問題 判別式と解の形の関係 解と係数の関係
1学期期末 (52)	7 三角比 8 正弦定理・余弦定理 9 図形の計量 10 データの分析 11 数え上げの原則・順列 12 組合せ 13 確率とその基本性質	三角比の基本公式 正弦定理、余弦定理、鋭角三角形、鈍角三角形 三角形の面積、ヘロンの公式、台形の面積、垂体の体積 四分位数、分散、標準偏差、相関係数 集合の要素の個数、順列、円順列 組合せ 同じものを含む順列 定義、加法定理、排反事象、余事象
2学期中間	14 独立試行・条件付確率 15 三角形の性質 16 円の性質、空間図形 17 整数の性質(1) 18 整数の性質(2) 融合問題演習 融合問題演習	独立試行の確率、反復試行の確率 条件付確率、乗法定理 三角形の五心、チェバ/メネラウス定理 接弦定理、オイラーの多面体定理 倍数、GCM/LCM、剰余類、n進法 ユークリッドの互除法 不定方程式 数と式 2次関数
2学期期末 (56)	融合問題演習 融合問題演習 融合問題演習 融合問題演習 融合問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習	図形と計量、図形の性質 論証 データの分析 場合の数と確率 整数の性質 入試問題の解法 入試問題の解法 入試問題の解法 入試問題の解法 入試問題の解法
3学期 (32)	共通テスト試験問題、入試問題演習	入試問題の解法
評価の 観点と 方法	基本事項の理解および応用力を評価の観点とし、 定期考査に平常点を加えて評価を行う。 以上の観点から総合的に評価を行う	

年間授業計画

科目名 (単位数)	数学Ⅱ・B演習(4)	教科書:数学Ⅱ、数学B (数研出版)
対象学年	3	副教材1:リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B
履修形態	選択	副教材2:
講座数	1	副教材3:
科目の目標	用語や定義・公式・定理を確認する。 基本問題や標準問題を解きながら、基本事項を確認する。 応用問題に取り組み、内容を統合的に理解する。 入試問題に対応できる実践力を養う。	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	16. 数列① 16. 数列② 15. ベクトル① 15. ベクトル① 15. ベクトル②	数列① 数列② ベクトル① ベクトル① ベクトル②
1学期期末 (52)	11. 図形と方程式① 12. 三角関数① 13. 指数関数と対数関数 14. 微分法と積分法① 14. 微分法と積分法② 8. 整数の性質 6. 場合の数と確率① 6. 場合の数と確率②	図形と方程式① 三角関数 指数関数と対数関数 微分法と積分法① 微分法と積分法② 整数の性質 場合の数と確率① 場合の数と確率②
2学期中間	3. 2次関数① 3. 2次関数② 13. 指数関数と対数関数 12. 三角関数 11. 図形と方程式① 11. 図形と方程式② 14. 微分法と積分法① 14. 微分法と積分法② 10. 複素数と方程式	2次関数① 2次関数② 指数関数と対数関数 三角関数 図形と方程式① 図形と方程式② 微分法と積分法① 微分法と積分法② 複素数と方程式
2学期期末 (56)	15. ベクトル① 15. ベクトル② 16. 数列① 16. 数列② 17. 補充問題 a 17. 補充問題 c 共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習	ベクトル① ベクトル② 数列① 数列② 補充問題 b 補充問題 d 共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習
3学期 (32)	共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習	共通テスト試験問題、入試問題演習 共通テスト試験問題、入試問題演習
評価の 観点と 方法	基本事項の理解および応用力を評価の観点とする。 定期考査に平常点を加えて評価を行う。	
以上の観点から総合的に評価を行う		

年間授業計画

科目名 (単位数)	数学Ⅲ(6)	教科書: 数研出版 数学Ⅲ
対象学年	3	副教材1: 数研出版 4STEP数学Ⅲ
履修形態	選択	副教材2: 数研出版 練習ドリル数学Ⅲ【標準編】
講座数	2	副教材3: 数研出版 キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編
科目の目標	様々な数列や関数についての収束・発散について理解する 微分法や積分法について数学Ⅱを元に更に広く深く理解する 複素数平面の応用により、図形や他の様々なものの理解を深める 2次曲線を通し、様々な曲線についての理解を深める	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	関数 極限 微分法	分数関数、無理関数 逆関数と合成関数 数列の極限 関数の極限 微分法
1学期期末 (78)	微分法 微分法の応用 積分法 積分法の応用	微分法 導関数の応用 速度と近似式 不定積分 定積分 積分法の応用
2学期中間	積分法の応用 複素数平面 式と曲線	積分法の応用 複素数平面 2次曲線 媒介変数表示と極座標
2学期期末 (84)		総合問題演習
3学期 (48)		総合問題演習
評価の 観点と 方法	基本的な概念を理解し、知識を身に付け、問題を解決することができる 事象を数学的に考察し、表現することができる 副教材、課題等への取組み状況 小テスト等の取組み状況 定期考査の得点	
	以上の観点から総合的に評価を行う	